

未来を見つめる みらい議会



特集1

避難指示解除でどう変わる? **これからの暮らし**

特集2

みらい議会

ほけんとふくし

こころも、からだも大切に。

平成29年3月31日
5年11か月続いた
飯館村の
避難指示解除
準備区域と
居住制限区域の
避難指示が
解除されます

避難指示解除を
きっかけに、暮らし
もきっといろいろ変わ
るんだよね。

村内の自宅に戻っ
たらやっぱり農業が
したいけど...皆は
どうするんだろう。

避難指示解除でどう変わる？

これからの暮らし

大震災から6年。長泥地区を除く村内の避難指示が解除されることに伴い、電気料金の減免措置が見直されるなど、さまざまな制度が徐々に平常化に向かいます。また一方で、そうした変化のスピードを緩和するため当面継続される補助制度や、新たな生活を始めるのに役立つ補助事業も多数あります。

3月31日の避難指示解除に向けて、現在検討されている内容も含めて、「暮らしに関わる情報」「交流や生きがいがづくりに関する補助事業」「現在進行している村内の復興事業」などについて、お知らせします。

まていの村に
陽はまた昇る

特集1 「避難指示解除でどう変わる? これからの暮らし」 P3

特集2
みらい議会 P10

復興を歩む vol.22 P12

村から課から係から

ほけんとふくし
こころも、からだも大切に。 P14

教育のページ
小学生のオリジナル絵本完成 ほか P16

報告のページ
除染検証委員会の発足 ほか P19

報告のページ
入札結果 P20

HOPES 期待の若手
作って食べよう!
こころのぼけっと P21

いいたて便り
長期宿泊者対象の懇談会開催 ほか P22

つながるアルバム P24

皆さんの声をお聞かせください P26

いいたて歳時記
ひとのうごき
編集後記 P27

仲間とともに
いいたてクリニック P28



月号の目次



式を終えたばかりの卒業生でにぎわう飯館中学校の「奏(かなで)の庭」。平成23年3月11日の午後1時頃に撮られた写真です。この光景の後で、あのように大きな災害に見舞われるとは、誰が想像できたでしょう。原発事故の影響による全村避難、避難生活の長期化、復興へ向けた必死の取り組み...かつてない歴史がつづられた6年でした。この輝く笑顔の復活へ、また、新たなページを記していきましょう。

片付けごみ

年内は回収が継続されます

避難指示解除後も、生活再建の中で、いわゆる“片付けごみ”などの発生が考えられるため、環境省が、最終年として、平成29年内に各家庭から発生する“片付けごみ”や、農機具等を回収します。4月以降、環境省から、回収申し込み書やスケジュール表などが各世帯に送付されます。お申し込みください。

問 復興対策課除染対策係 ☎0244-42-1625

避難先住居

平成30年3月以降も要望中

仮設住宅・借り上げ住宅の入居期間は、平成30年3月まで延長されました。その後は不透明ですが、村では、延長されるよう要望しています。

問 飯野支所生活支援係 ☎024-562-4249

医療・介護

介護サービスの再開を調整中

「いいたてクリニック」は、当面、これまで同様、火曜日と木曜日の午前9時から正午までの診療です。訪問介護・通所介護等については、サービス提供が受けられるよう介護事業所等と調整中です。保健師等の訪問依頼は、健康福祉課健康係へお申し込みください。

問 健康福祉課健康係 ☎0244-42-1637

買い物

4月から移動販売を開始予定

4月以降の村内の買い物環境については、現時点では以下の通りです。

- セブン-イレブン仮設店舗 (日用品・食料品等)
- (株)運喜による移動販売 (生鮮食品・日用品等、4月以降開始予定)
- コープふくしまによる週1回の宅配事業 (日用品・食料品等)
- いいたて村の道の駅までい館 (コンビニエンスストア・軽食コーナー他) 8月開業予定※日用品販売や宅配事業もあり

問 復興対策課商工労政係 ☎0244-42-1620

税金

税の減免は継続される予定

個人住民税・軽自動車税(使用できないトラクター)

平成29年度も、28年度と同様に減免を継続

固定資産税(土地・建物)

平成29年度も、28年度と同様に全額減免

平成30年度～32年度は、国と村が2分の1ずつ負担し全額減免の予定

問 住民課税務係 ☎0244-42-1615

国保税など

国保税などの減免は継続の予定

国民健康保険税(保険料)及び一部負担金

介護保険料及び一部負担金

後期高齢者医療保険料及び一部負担金

国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料については、保険税等が平成30年3月31日まで免除されます。また、一部負担金については、平成30年2月28日まで免除されます。「帰還困難区域」を除く上位所得層は、平成29年10月分から通常の課税がされます。

※「上位所得層」とは、所得が年600万円を超える世帯

問 住民課住民係 ☎0244-42-1619

電気料金

電気料金の徴収が再開されます

避難指示解除後、村内で生活する世帯の電気料金は徴収が再開されます。

検針日の翌月からの請求になります。

村外で生活する世帯も、平成29年11月分から村内住居の電気料金の徴収が再開されます。

※4月以降、東北電力より電気の使用予定を確認するため「電気ご使用計画書」が各世帯に送付されます。

問 東北電力コールセンター ☎0120-175-655

農業の再生

村は、「農」にたずさわるための指標として、「飯館村営農再開ビジョン」を冊子とパンフレットにまとめました。「農地の管理」「なりわい農業」「生きがい農業」などについて、取り組み方の先例や、活用できる事業等を示し、相談窓口も紹介しています。どうぞご利用ください。

なお、復興対策課農政係では、農業用機械・施設・種苗・家畜等の導入を支援しています。平成29年度分の受け付けを随時実施していますので、お問い合わせください。

問 復興対策課農政係
☎0244-42-1621

生きがいづくり

文化活動やスポーツについては生涯学習課、生きがい農業については復興対策課農政係というように、生きがいづくりの活動支援には、内容によって、さまざまな窓口があります。積極的にご相談ください。

問 生涯学習課
☎0244-42-0072

問 復興対策課農政係
☎0244-42-1621

「きこり」の宿泊

5月8日から、宿泊体験館「きこり」の宿泊棟とコテージで、素泊りの宿泊が再開できるよう、関係条例・規則の改正を3月議会に提出します。入浴施設の利用と共に、当面は原則として村民のみの利用となります。レストランやその他の施設の再開、村外の方の利用再開に向けて、さらに整備を進めていきます。

問 復興対策課商工労政係
☎0244-42-1620



生きがいづくりや、
人とのつながりを、
ますます大事にして
いきましょう

生きがいや
交流を
大切に

陽はまた昇る基金

村に寄せられた寄付やふるさと納税を財源に創設した基金です。活用できる事業は多岐にわたり、村民の皆さんが、なりわいの再生や、生きがいづくりに活用できる内容も多く含まれています。補助率などを確定後、4月頃に詳細をお知らせします。「一人ひとりの復興」をしっかり支援していきます。

問 総務課企画係
☎0244-42-1613

コミュニティ活動

行政区の活動、避難先自治会の活動を、引き続き支援します。また、村内で新たなコミュニティ活動を行う人たちへの支援も行います。行政区活動については総務課企画係もしくは各コミュニティ担当職員に、自治会活動については、飯野支所生活支援係に、新たなコミュニティを立ち上げる場合の補助については総務課企画係にご相談ください。

問 総務課企画係
☎0244-42-1613

問 飯野支所生活支援係
☎024-562-4249

自治組織の同窓会

仮設住宅や方部別の自治組織で、支え合っ活動してきた皆さんが、帰村したり、新たな場所で生活を始めたりして、離ればなれになってきています。避難先でできたコミュニティが、再び集まり励まし合う「同窓会」を支援します。要件など詳細については、お問い合わせください。

問 飯野支所生活支援係
☎024-562-4249

家庭ごみ

4月からはすべて飯館クリアセンターで収集します。もえるごみ、もえないごみ(不燃ごみ)、資源ごみの3種類に分け、集積所に出してください。なお、もえるごみ・もえないごみは村指定のごみ袋で、資源ごみは市販の透明な袋で、指定の日時に出してください。詳しい日程は、後日配布されるカレンダーで確認を。粗大ごみの受け入れは、当面行いません。

問 住民課住民係 ☎0244-42-1618

引っ越し

おかえりなさい補助金事業

帰村する世帯の引っ越し費用を補助する「おかえりなさい補助金」の新設を目指しています。3月議会で承認されれば、制度を確定し、手続き等についてお知らせします。

問 総務課企画係 ☎0244-42-1613

タブレット

村配布のタブレット端末は、平成29年度も継続して利用できます。ただし、3月中旬を基準に、それ以前の6か月間、利用がなかった端末については、通信を終了します。詳しくは、今号に同封のチラシをご覧ください。

問 総務課企画係 ☎0244-42-1613

高速道路

高速道路の無料措置については、平成29年3月31日まで継続されておりますが、平成30年3月31日まで延長される見込みです(国会に予算を提出)。

防犯活動

警察と「いいたて全村見守り隊」が村内を巡回し、防犯にあたっています。駐在所も、日中・夜間のパトロールを行っています。4月から新たに「防犯指導隊」も活動します。また、村内に防犯灯を一斉に整備します。

問 住民課住民係 ☎0244-42-1618

見守り活動

村社会福祉協議会の事務所が、3月6日から「陽だまりの家」(いちばん館隣り)に移転し、村内の訪問活動が行いやすくなります。また、村の保健師による戸別訪問も継続します。

問 健康福祉課健康係 ☎0244-42-1637

問 飯館村社会福祉協議会(陽だまりの家) ☎0244-42-1021

新聞配達

各戸配達が始まります

中央紙・地方紙共に、各戸配達による定期購読が可能です。配達希望を役場で取りまとめますので、購読ご希望の方は、今号に同封のチラシでお申し込みください。

問 総務課企画係 ☎0244-42-1613



そのほか
これからの
お知らせ

避難指示解除日
の式典の日程と、
新年度の予定など
お知らせします



整備されるスポーツ公園



建設中の道の駅

村民の暮らしに役
立つ事業を、ハー
ドとソフトの両面か
ら進めます

進めます！
復興事業

記念式典

3月31日の午前0時に避難指示が解除されます。
記念式典と記念イベントを、3月31日午前10時から、交流センター「ふれ愛館」で開催し、節目を刻むと共に、これまで支援をいただいた全国の皆さんに感謝をお伝えします。

問 総務課企画係
☎0244-42-1613



大谷地住宅（昨年完成した建物）

道の駅までい館

今年8月のオープンを目指して、深谷復興拠点の中心部で整備が進んでいます。詳しくはP12の「復興を歩む」をご覧ください。

学校・スポーツ公園

幼稚園・小中学校を、飯館中学校敷地内に接続して再開するよう、準備を進めています。幼稚園は保育所と一緒に「認定こども園」として園舎を整備します。屋内プールや給食センター（食育プラザ）、小学校用の体育館なども新設します。
スポーツ公園エリアでは、陸上競技場、野球場、テニスコート、屋内運動場、管理棟、駐車場などを全面改修し、平成30年4月のオープンを目指します。

問 飯館村教育委員会
☎0244-42-1631

役場窓口の変更

各種登録・届け出の
受付が本庁のみになります

4月1日から、各種登録・届け出は、本庁のみで受け付けます。
飯野支所の窓口は、4月1日以降、住民相談総合窓口となり、仮設・借り上げ住宅の入退去手続き、仮設住宅維持管理、自治会支援などの業務などを継続します。これは、戸籍事務・住民基本台帳事務に精通した職員の人員体制が取れず、本庁と支所の2か所での業務ができなくなったためです。戸籍事務における事故は決してあってはならないことであり、また、事故が発生すれば訴訟などにもつながりかねませんので、やむを得ず終了の判断をしました。

問 住民課住民係(窓口) ☎0244-42-1617

村営住宅の整備

平成29年度は、大谷地住宅の8戸（昨年度8戸建設済で計16戸）、深谷地区復興拠点エリアに15戸（完成は平成30年度）を建設します。飯樋町桶地内住宅は、平成30年度に、10戸を建て替える予定です。
なお、避難指示解除に向けて修繕した既存の村営住宅では、入居者を募集しています。詳しくは、お知らせ版2月20日号をご覧ください。

問 建設課建設管理係
☎0244-42-1624

里山除染など

5月頃から「村民の森あいの沢」で、国による里山除染のモデル事業が、実施されます。また、除染後のモニタリング、ホットスポット除染等は、平成29年度も引き続き実施されます。
村では、2月に飯館村除染検証委員会を設置しました。国の除染の検証と今後の方針づくりに取り組みます。里山や森林の再生についても、今後の取り組み方を検討していきます。

問 復興対策課除染対策係
☎0244-42-1625

農林土木係

村は、今後、営農再開に向けた農地の用排水路、暗渠（あんきょ）排水などの整備を図っていくために、平成29年度より、村建設課に「農林土木係」を新設します。

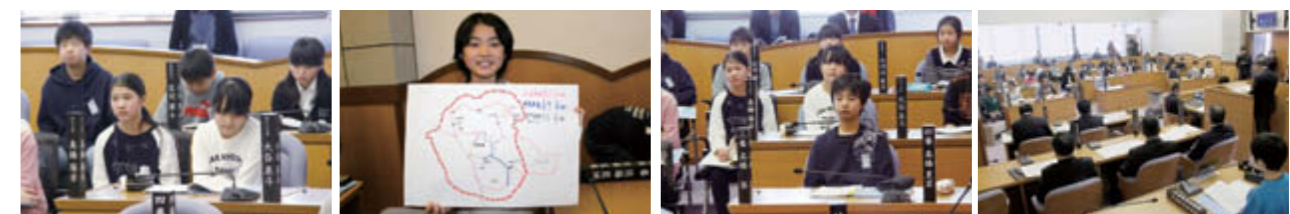
住民懇談会

4月から5月頃、村と国の共催で、方部別に数か所で住民懇談会を開催できるよう準備をしています。日程は、後日お知らせしますので、ぜひご参加ください。避難指示解除後の暮らしの再建、これからの村づくりなどについて、情報共有や意見交換を行いたいと考えています。

問 総務課企画係
☎0244-42-1613

葬儀所の新設

伊丹沢地区（旧月電工業建物を改修）に、葬儀所を整備します。オープンは、今年の11月頃を予定しています。



村長さん、ぼくらのアイデアどうですか!?

小学生が復興策提案

みらい議会村内開催

2月2日、震災後6年ぶりに村役場内の議場で、小学生が考えた施策の提案や村への質問をする「みらい議会」が行われました。この日参加したのは、草野・飯樋・白石小学校に通う6年生33人。議長、副議長、記録係なども児童が務め、議会を運営しました。

一般質問の場面では、村長、副村長、各課長を前に、緊張する様子も見られましたが、議員役の児童は、熱弁をふるい、自分たちで考えた提案をしました。これに対し村側は、提案に対して率直な感想を述べるとともに、村で行っている事業や検討されている事業も示しながら、丁寧に答弁しました。

今年のみらい議会に参加した児童は、小学校入学を直前に控えた3月に震災に遭い、小学校生活6年間を仮設校舎で過ごしました。村内小学校に通うことができなかった子どもたちが思い描く村の復興策には、心に響く「明るく、楽しい」想いがあふれていました。

子どもたちの夢のある5つの提案をご紹介します



「飯舘村までい鬼ごっこ」の提案!

佐藤 陽季 さん (飯樋小6年)

出場者を全国から募集して、村内で鬼ごっこを開催します。村の自然と触れ合いながらスリルを味わうことができます。携帯情報端末を使った企画も行います。



「飯舘村音楽夏祭り」の提案!

青田 槇花 さん (草野小6年)

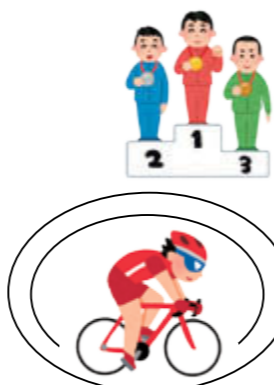
飯舘牛やイチゴ、自然など村の良いところを全国に発信するために、たくさんの方が集まり、音楽を楽しみながら交流や村PRができる新しい祭りを提案します。



「ツール・ド・飯舘」から自転車立国の提案

佐藤 藍璃 さん (飯樋小6年)

2年前の6年生が提案した村内自転車レースの開催に加えて、選手育成を提案します。「自転車といえば飯舘村」と言われるような、有名な地域を目指します。



「そうだ!釣りにいこう」の提案!

高橋 葵 さん (草野小6年)

豊かな自然環境を生かした釣り場を設けます。多くの人に、村の自然の良さを感じてもらえると思います。また、自然を守ることや、産業にもつなげることができます。



みらい議会に参加した
児童の皆さん、
おつかれさまでした!



「イチゴの王国」の提案!

高橋 夏菜 さん (白石小6年)

村の象徴として「イチゴ」を使い、道の駅への集客を図ります。イチゴの他にも、ひまわりや菜の花をたくさん育て、皆さんの心に残る景色を作っていきます。



復興を歩む

vol.23

深谷地区復興拠点
道の駅「までい館」

深谷地区で、「いたて村の道の駅までい館」(仮称)の建設が進んでいます。

この道の駅は、深谷地区復興拠点エリアの中心施設です。道の駅の西側に位置する太陽光発電施設は、すでに昨年稼働しています。

また、道の駅の北側には、帰村後、イベントや集会など多目的に活用できる公園や、花卉栽培施設が、順次整備されます。拠点エリア内の村営復興住宅は、平成30年度に15戸が整備され、合わせて集会所も建設される予定です。

道の駅の敷地は、県道原町川俣線に面していて、1万5000㎡あまりの広さがあります。場内には58台分の駐車スペースが整備され、道の駅の施設には、休憩・物販のための「までいホール」、軽食コーナー、花卉展示販売ホール、コンビニエンスストア、24時間365日使用できる公衆トイレ、情報提供スペースが整備されます。

道の駅では、軽食・物産の販売、花卉の展示販売などを行い、産業振興・地域活性化に寄与します。また、村内の買い物場所として利用されることも想定し、生活必需品も販売します。交通弱者やお年寄りのための宅配サービスも行う予定です。

さらに、「人」「もの」「情報」が集まる交流拠点となることも目指します。村のよさや、復興状況の発信も、広く行います。

加えて、併設する花卉栽培施設や、花卉の展示販売スペースを中心に、花でいっぱい施設を目指します。高い技術で品質のよい花卉を栽培してきた村の農業復興をアピールする場でもあり、また、花そのものが、訪れる人の憩いのひとときを彩ります。さらに、県道をはさんだ向かい側の農地も、草花が季節を告げる花畑として整備を行います。

「いたて村の道の駅までい館」(仮称)は、現在、村内の仮事務所にて、今年8月のオープンを目指し、開業準備を行っています。営業開始にあたっては、スタッフの募集も予定されています。飯館らしい道の駅が誕生するのを、楽しみに待ちましょう。新しい村の拠点施設を、皆さんもぜひご利用ください。

冬期間も進められた道の駅の工事。右ページの白い塀に囲まれている所が、建設現場です。左ページに見えるのが太陽光発電施設で、昨年5月から稼働しています。発電量は約1,500kwで、将来的には、その売電益を、復興拠点内施設の運営管理費の一部に活用します。また、県道をはさんだ復興拠点エリアの南側、写真手前の農地には、季節の花が咲く広大な花畑が出現する予定です。エリア奥手に建設される復興公営住宅は、平成30年度に15戸が完成する予定です。

人と人が
支え合う

声をかけて支える

ゲートキーパー養成講座

村は、12月19日、大類真嗣福
島県立医科大学精神科医師を講
師に「こころの健康づくり、ゲ
ートキーパー養成講座」を開催し
ました。講座では、ゲートキー
パーの役割や、悩みを抱えてい
る人への声のかけ方や接し方
について、お話いただきました。
この日は、普段、村民とかか
わることが多い村社会福祉協
会の職員や民生委員などが参
加し、声をかけて支えていく大切
さを学びました。



▲人と人とのつながりの大切さを学びました

参加者の声

「身近な人の声が大切だと
改めて感じました。話し
を聞く時は、アドバイ
スを押し付けるのではなく、
話を聞いてあげることが
大切ですね。何気ない一
言で心が温まります」



講座に参加した
藤井 富男さん
(上飯樋)

ゲートキーパーとは・・・

身近な人が悩みを抱えていたり、体調が悪
い様子に気がついたりしたら、話を聞き、適
切な相談機関につなぐことができる人。特に
資格は必要ありません。

次回の養成講座は6月に開催予定!

村主催の養成講座に参加すると村オリジ
ナルのサポーターバッジがもらえます。



村での講演や広報紙面で相談コーナーを行っている堀先生に、
改めてこころの健康について伺いました。

— 4月から環境が変わる方が多いと思います。新生活への不安を
減らす方法はありますか。—

新生活が始まってから、不安や心配を感じる人もいます。これは、
慣れ親しんだ習慣から離れたことが理由のひとつです。

この不安を取り除くには、前の生活で使っていた物を身近に置
いたり、自分の好きなことを行ったりすることが良いかもしれませ
ん。地域の伝統行事やお祭りを復活させることもそのひとつです。

— どうしても、嫌なことや不安なことがあるのですが。—

こころに影響を与える脳は、胃や腸と同じく体の一部です。疲
れたり、傷ついたりした時にはしっかり休みましょう。まずは、
専門機関に相談してみてください。体調を崩してしまう程の悩み
や不安からは思い切って逃げることも大切です。



ほりメンタルクリニック
堀 有伸 院長

震災後、村や南相馬市など
相双地区の精神保健に従事。

自分も、他人も大切に。
少しでも、こころがつかれたと感じたら、お気軽にお電話ください。
また、周りの大切な人に「あれ?」「最近気になるな?」と思うことがあれば、ご連絡ください。

健康福祉課健康係 (いちばん館内) ☎0244-42-1638

こころも、からだも大切に。



2月15日 しあわせカフェ永井川にて。素敵な笑顔

こころは、元気ですか。

村が昨年の検診時に行ったア
ンケートを見ると、震災後から不
眠や体調不良に悩んでいる方が
少なくないことが分かりました。
震災以降、環境が大きく変化
し、長い避難生活を過ごしている
ので、原因は人それぞれあるか
と思います。その中でも、不安やス
トレスを直接感じる「こころ」につ
いて考えてみましょう。
風邪を引いたら体を休めるよ
うに、時にはこころも休むこと
が必要です。本特集では、村民の
皆さんが少しでもホッとできるよ
うな、自分も周りの人も大切に
できるようなヒントをご紹介します。

まずは、自分で自分をチェック!

以下の項目に思い当たる方は、こころが
疲れているかも。

- 常に緊張して、気持ちが高ぶって
いる。
- どういう訳か、元気がでない。
- 夜眠れない…眠りが浅い。
- 物忘れをするようになった。
- お酒を飲み過ぎてしまう。

人に会いに、出かけてみましょう!

自治会や村社協などが開催し
ているお茶飲み会に出かけて、
人に会うことで心が安定するこ
ともあります。日程・場所等は
お知らせ版等をご覧ください。



ひとりで出来る! ストレス、不安、緊張を和らげる体操をご紹介します

肩をゆっくりと上げて、下ろす簡単な体操です。

- ① イス(床の上でも可)に座り、腕を
真横におろす。背筋をまっすぐ伸ばし、
可能であれば軽く目を閉じる。
- ② 肩をゆっくりと上がるまで上げる。
肩以外に力が入らないように注意。
- ③ 肩が上がったら、ゆっくりとおろす。
肩を下ろすとき、気持ち良さを味わう。
肩、腕、手の力の抜けた感じを味わう。



自分を
大切に



▲楽しいメロディと園児の歌声が響きました

今回で3回目となる白井先生の訪問。歌を歌いながら登場した白井先生に、園児も自然と笑みがこぼれました。幼稚園では、昨年の訪問の際に教えてもらった歌を毎朝歌うなどして、先生が作った歌に親しんでいます。
この日も、白井先生はピアノを弾いたり、手話を交えたりしながら園児に楽しい歌を披露し、「これからも歌を通して、周りの人たちに元気を与えてください」と優しく声をかけました。

歌の力を信じて。
2月17日、幼稚園と小学校で音楽専科教諭白井真先生（神戸市立西灘小学校）による歌を通じた特別授業が行われました。
白井先生は、1995年に発生した阪神・淡路大震災で自宅が全壊する被害に遭い、その直後に、「歌で街を勇気づけたい」と歌「しあわせ運べるように」を作りしました。この歌は神戸の小学校で歌い継がれており、神戸の人たちを約20年間励まし続けています。



▲復興を願う希望の歌が神戸から伝えられました

草野・飯樋・白石小学校のようす
小学校では4年生を対象に「いのちの授業」が開かれ、白井先生自身が、被災した経験や、神戸の子どもたちのようすを、当時の映像を使いながら児童に説明しました。その中で、白井先生が歌に託した復興への願いが語られると、熱心に聞く児童の姿が多く見られました。
授業の最後には、児童が「しあわせ運べるように」の歌詞の「神戸」を「福島」に変えて、復興を願いながら歌い、特別授業の幕を閉じました。

しあわせ運べるように
作詞・作曲 白井真
地震にも負けない強い心を持って亡くなった方々のぶんも毎日を大切に生きてゆこう
傷ついた神戸を元の姿に戻そう
支えあう心と明日への希望を胸に響きわたればくたの歌
生まれ変わる神戸のまちに届けたいわたしたちの歌
しあわせ運べるように
国内外の被災地で、歌詞「神戸」を「ふるさと」などに変えて歌われ、被災者を勇気づけています。



▲震災後、継続的にご支援いただいています

ロータリークラブ 教材寄贈
2月8日、福島南ロータリークラブ（佐久間功会長）より、草野・飯樋・白石小学校と飯館中学校に実験教材等の寄贈がありました。同ロータリークラブからは、以前にも図書等をいただいています。
今回の寄贈にあたり佐久間会長から「子どもたちが希望した教材を贈ることができた。この教材を使って、充実した学習をして欲しい。村の子どもたちに対してこれからも支援を継続していきたい」と激励の言葉が贈られました。



▲子どもたちの大切な絵本が完成しました

今回、完成した5年生作「ほくのもり、わたしのもり」、6年生作「ひまわりの村」の2冊の絵本は、交流センター「ふれ愛館」や移動図書館こあら号で貸し出しを行っています。子どもたちの思いが詰まった絵本を、ぜひご一読ください。

小学生と絵本作家いせさん オリジナル絵本の完成！



みんなの思いが絵本に！

2月7日、草野・飯樋・白石小学校に通う5・6年生と絵本作家・いせひでこさんが一緒に作った絵本が完成し、児童一人ひとりに手渡されました。
震災後、小学校では全児童を対象に、いせさんといせさんの夫で作家・柳田邦男さんによる絵画教室を行ってきました。この絵本は、今年の夏、5・6年生が描いた絵にいせさんが文を加えたものです。いせさんは「震災がきっかけで、特別な時間を過ごしてきた。言葉で表現できないことを描いた絵が形になってうれしい」と完成を喜びました。また、柳田さんからは、絵画教室を受ける児童の真剣な姿などを撮影した写真が、全学年に贈られました。

冬を楽しむ特別授業

2月、幼稚園と小学校がそれぞれ福島県内のスキー場で特別授業を開き、子どもたちが冬にしか体験できない授業を楽しみました。
8日に塩沢スキー場（二本松市）で行われた幼稚園の特別授業では、親子がそり遊びや雪をバケツに詰めて積み上げる雪タワー作りを競って楽しみました。また、10日には、あだたら高原スキー場（二本松市）で小学校の全校生徒を対象にしたスキー教室が行われ、インストラクターから滑り方や止まり方を学びました。



▲幼稚園の親子が雪タワー作りを楽しみました



▲小学生がスキーに挑戦！雪山の魅力を味わいました



▲村外で農業を再開した方も経験を話しました

村農業委員会(本庁)
☎0244-42-1629

農業に関するお問い合わせ先
業にかける思いを話しました。
るために日々がんばりたい」と農
業にかけられる思いを話しました。
避難先で営農を続けているが、
村の復興に寄与できる人材にな
るために日々がんばりたい」と農
業にかける思いを話しました。



▲約50人の参加者が集い、思いを話しました

農業復活への道 語りかけ

1月28日、農業に関わる村民
などが伊達市内に集まり、村の
農業の現状と今後の課題につ
いて意見交換会が開催されまし
た。これは、飯館村農業委員会が農
業者同士のつながりと農業復興
を目指し、震災後も継続的に開
催しているものです。

会では、農政係から、村内で
営農再開する農家に対する支援
事業の説明があった他、避難市
町村の営農再開に向けた取り組
みについて、万福裕造さん(農研
機構)の講演がありました。参加
者からは、「農作物の販路確保」
や「鳥獣被害対策」などについて、
質問が寄せられました。



▲村長から委嘱状を手渡される多田委員長

除染効果 検証開始

2月8日、村で行われた除染
の効果などを、放射線の専門家
ら有識者5人が評価・検証・提案
を行う「飯館村除染検証委員会
(多田順一郎委員長)」が発足し
ました。

会の冒頭、菅野村長が、「除染
が終わっても完全に元の状態に
戻っているわけではない。村民の
放射線に関する不安解消に向け
て、国に求めるべきことや村が取
り組むべき事業を提案してほし
い」とあいさつを述べました。そ
の後、環境省から村の除染方法
と経緯について説明があり、検証
を開始しました。会では、5月
頃までに村へ報告書を提出する
予定です。

委員紹介(敬称略)
委員長 多田順一郎
(NPO法人放射線安全フォーラム理事)
副委員長 遠藤 和人
(国立環境研究所主任研究員)
委員 宮崎 真
(福島医大放射線健康管理学講座助手)
万福 裕造(農研機構)
大越 憲一(村行政区長会長)



▲専門的な知見から村内除染の検証を行います

5月頃までに村へ報告書を提出する
予定です。

小6国語 算数、中3数学 平均超え 「全国学力・学習状況調査」結果

今年度の小学6年生と中学3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」の結果をお知らせします。
各分野の正答率及び全国を100とした場合の標準偏差の比較を見ると、小学6年生では国語A、算数A、算数Bで全国平均を上回りました。また中学3年生では、国語A及び国語Bについては、全国平均・県平均をやや下回りましたが、数学A・数学Bについては、県平均を上回りました。

平成28年度全国学力・学習状況調査(全国平均を100とした時の比較)

		正答率			標準偏差	
		全国	福島県	飯館村	福島県	飯館村
小6	国語A	72.9	73.3	76.5	100	102
	国語B	57.8	56.6	56.9	100	100
	算数A	77.6	77.2	79.7	100	101
	算数B	47.2	46.2	49.0	99	101
中3	国語A	75.6	75.5	75.3	100	99
	国語B	66.5	65.0	64.2	100	99
	数学A	62.2	59.0	60.9	98	99
	数学B	44.1	41.2	41.7	99	99



今、学校では個人の学習時間をいかに確保するか、自分から学習に向かう習慣をどう身につけるかを課題としています。同時に行われた学習状況調査では、小学6年生で「テレビやDVDを見る時間」が長いことが分かった反面、昨年まで懸念されていた「2時間以上テレビゲームをする」と答えた人数は小学6年生、中学3年生ともに減少しました。

このほか「普段、一日にどのくらいの時間、携帯電話やスマホで通話メール、インターネットをしますか」と尋ねた質問では、2時間以上と答えた小学6年生が9.4%でしたが、中学3年生では6.3%となり学校としてメディアコントロールに取り組んだ成果が見える結果となりました。ご家庭のご協力に感謝いたします。

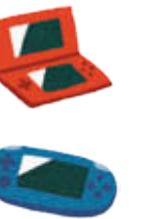
質問 月～金曜日、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)

回答	4時間以上	3時間	2時間	1時間	30分以上	30分より少ない
小学6年生	3.1%	0%	6.3%	12.5%	3.1%	31.3%
中学3年生	0%	0%	6.3%	34.4%	18.8%	21.9%

今後も村では、「メディア・コントロール運動」を進め、子どもたちをメディア依存症から守るための取り組みを行っていきます。家庭でも子どもたちにスマホやタブレットなどを与えっぱなしにせず、ルールを決めて使用するようにならせます。

村の「メディア・コントロール運動」

- 幼稚園では、「メディアに子守をさせない」
- 小学校では、「メディア本体・パスワードの親による徹底管理」
- 中学校では、「親の意思と判断によるメディア・コントロール」




期待の若手
ホープズ




子育て支援センターすくすくに遊びに来ていた親子の皆さん

木のぬくもりを感じる建物に、あたたかな光が差し込む子育て支援センターすくすくにはいつでも親子の笑顔にあふれています。村民の親子はもちろん、福島市の親子も遊びに来ています。準備の要らないちよこっと遊びや、手作りおやつ料理教室なども開催されています。2月2日に開催された子育て講習会では「子ども自身が気づいて、遊ぶことが大切」という講師の話に熱心に耳を傾けるお母さんたちの姿が多く見られました。子どもたちは、未来の宝もの。たまにホッと息を抜きながら楽しい子育てを、すくすくでお会いしましょう。



牛乳を使った新しい和食「乳和食」
簡単で、美味しく、栄養タップリ!!

作って食べよう!



「ミルク餅」

材料（4人分）

- ・牛乳 …………… 200ml
- ・きな粉 …………… 大さじ3
- ・かたくり粉 …… 大さじ6
- ・砂糖 …………… 大さじ1
- ・塩 …………… 少量

＜作り方＞

- ①鍋に牛乳とかたくり粉を加えてよく混ぜ、底からへらで絶えず混ぜながら中火で加熱する。ひとまとまりになったら弱火で2分練る。
- ②①をスプーンですくって器に盛り、合わせておいたAをかける。

●「乳和食」はみそや醤油などの伝統調味料に牛乳を組み合わせることで、食材本来の風味や特徴を損なわずに減塩し、美味しく和食を食べる調理法です。

協力：飯舘村食を考える会

入札結果をお知らせします

入札日 / 12月19日 (単位:円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込)	請負業者	完成予定
地上デジタル放送再送信事業工事(第2期)	4,650,480	東日本電信電話(株)福島法人営業部	平成29年3月下旬
飯舘村「いいたて まいでいな いちご」販売体制等策定業務	2,658,960	(株)大広	平成29年3月下旬
中山間地域等直接支払推進協議会集落支援事業【ディスクモア及びオフセットモア並びにロータリー導入一式】	6,023,160	(株)南東北クボタ川俣営業所	平成29年3月下旬
中山間地域等直接支払推進協議会集落支援事業【オフセットシュレッダー及びハンマーナイフモア並びにロータリー導入一式】	3,434,400	(株)渡辺機械	平成29年3月下旬
中山間地域等直接支払推進協議会集落支援事業【バックホー及びハンマーナイフモア導入一式】	6,480,000	(株)渡辺機械	平成29年3月下旬
井戸掘削(ボーリング)工事(飲料水安全確保支援事業)	3,888,000	庄建技術(株)	平成29年3月下旬
公的宿舎清掃業務	2,296,080	(株)トーカンオリエンス	平成29年3月下旬

入札日 / 1月11日 (単位:円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込)	請負業者	完成予定
飯舘村役場庁用備品購入	3,758,400	(株)大一事務機	平成29年2月下旬
庁内LAN端末購入	1,555,200	(株)福島県中央計算センター	平成29年2月下旬
飯舘村役場飯野支所補修工事	5,400,000	(株)古俣工務店 川俣支店	平成29年3月下旬
村内拠点A-3エリア上下水道設計業務	6,642,000	(株)東コンサルタント相双事業所	平成29年3月下旬
防犯設備(防犯灯)機能回復事業(修繕設計業務)	1,036,800	(株)カネコ林でんきや	平成29年3月下旬
相談支援(訪問活動支援)業務	2,084,400	(株)トーネット	平成29年3月下旬
飯舘村営農再開ビジョン及びダイジェスト版印刷製本	2,196,720	(株)SAGADESIGN SEEDS	平成29年3月中旬
農業集落排水管路補修工事排水管路布設替え実施設計業務(草野1期)	2,862,000	(株)東亜コンサルタント	平成29年3月下旬
農業集落排水処理施設更新工事実施設計業務	3,186,000	福島県土地改良事業団体連合会	平成29年3月下旬
第2回 いいたてっ子交流事業業務	5,823,295	(株)近畿日本ツーリスト東北 福島支店	平成29年3月下旬
交流センターピクチャーレール取付工事	2,008,800	仙建工業(株) 福島支店	平成29年2月下旬
表示板付モニタリングポスト設置業務	16,028,280	(株)富士通エフサス いわき支店	平成29年3月下旬

こころの
ぽけっと

世界で一番貧しい
大統領のスピーチ

2012年、原発事故の1年後のことです。地球の環境悪化について話し合ったために、世界各国の代表者が集まる会議がブラジルでありました。そこで、ウルグアイという国の大統領のあいさつが大喝采を受けたそうです。それは「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」ということで世界中に発信され話題になりました。内容は次のようなものです。

今の地球は、もっと便利に、もっと豊かに、もっと良いものを手に入れようとするさまざまなものを作ってきた文明です。お陰で世の中は、おどろく程発展し便利になってきました。しかし、私たちはその仕組みをうまく使いこなせているのでしょうか。むしろ、そんな仕組みに踊らされているのではないのでしょうか。人は豊かになるために競争を繰り広げ、誰もが持っているはずの家族や友人や他人を思いやる気持ちをどこかにやってしまったのではないかと考えてなりません。

したがって、目の前にある危機は、環境の危機ではなく、私たちの生き方の危機ではないでしょうか。例えば、1個の電球は1000時間以上使うと切れてしまいます。10万時間20万時間持つ電球があるのですが、それを作ってはいけなのです。なぜなら、電球をどんどん売っていかなければならぬからです。使い捨てる文明でなければいけないからです。私たちの生活が、このままでよいのでしょうか。考えなおさないで…。

ごくごく一部ですが、以上のような内容です。原発事故に遭った私たちが、いや世界中の人がこの災害から何を学び、何を次世代に残していくか、という一番大切なことをズバリ言い当てていると言っています。

「貧乏は、少ししか持っていないことではなく、もっともっとと欲しがることです」
彼のこの言葉は、人間にとって何が大切かを示唆しているので世界中の話題になったのだと思ったところでした。

平成29年2月13日 飯舘村長 菅野 典雄

2/12 長期宿泊者を対象とした初めての懇談会



▲避難指示解除後の暮らしを想定した具体的な質問・意見が続きました

長期宿泊者を対象とした住民懇談会が開かれ、会場の交流センター「ふれ愛館」に、村民43人が集まりました。国からは原子力災害現地対策本部の後藤収副本部長や関係省庁、県からは担当者らが出席。菅野村長ほか村の関係者も出席して、参加者から課題や要望を聞き、対応について意見を交わしました。間近に迫った避難指示解除に向けて、出席者からは、防犯・医療・買い物・生きがいつくり・家庭ごみについてなど、暮らしに関連する分野の質問が相次ぎました。

- 2月の村の動きと主なできごと**
- 1日・旧松川小仮設住宅自治会懇談会（旧松川小応急仮設住宅集会所）
 - 2日・みらい議会（村役場本庁議場）
 - 3日・3府省庁副大臣による避難指示区域等の医療・介護に関する視察・意見交換（「いいたてホーム・いいたてクリニック」）
 - 4日・伊達東仮設住宅自治会・伊達西部自治会懇談会（伊達東地区交流館）
 - 5日・南相馬市自治会懇談会（南相馬市原町区福祉会館）
 - 8日・第1回飯館村除染検証委員会（村役場本庁）
 - 10日・仮設住宅・公的宿舎等管理人会議（飯野支所）
 - 11日・松川第一仮設住宅自治会懇談会（松川第一応急仮設住宅集会所）
 - 12日・長期宿泊者との懇談会（交流センター「ふれ愛館」）
 - 13日・荒井・信夫住宅自治会懇談会（福島西学習センター）
 - 13日・15日・村議会 国・関係機関への要請活動・視察研修（東京都内）
 - 14日・スポーツ推進委員会（飯野支所）
 - スポーツクラブ理事会（飯野支所）
 - 相馬西仮設住宅自治会懇談会（相馬大野台応急仮設住宅集会所）
 - 15日・大森地区自治会懇談会（N T T大森宿舎集会所）
 - 16日・吉倉宿舎自治会懇談会（吉倉公務員宿舎集会所）
 - 19日・北信方部自治会懇談会（花ももの湯）
 - 川俣地区自治会きつぎの会懇談会（川俣町中央公民館）
 - 20日・飯野町団地自治会懇談会（ふれあいほくろまっぼくろ）
 - 21日・飯館村企業立地審議会（村役場本庁）
 - 22日・第2回農業委員会定例総会（村役場本庁議場）
 - 文化財保護審議委員会（交流センター「ふれ愛館」）
 - 社会教育委員の会議（交流センター「ふれ愛館」）
 - 健康づくり推進協議会（村役場本庁）
 - 飯野・明治仮設住宅自治会懇談会（飯野地域福祉センター）
 - 定例教育委員会（村役場本庁）
 - 23日・小中学校地域学校保健委員会（飯館中学校）
 - 28日・第2回飯館村除染検証委員会（村役場本庁）

大切な文化財を
火災から守ろう

1/29

ひと月のできごとを
振り返ってお知らせします

文化庁・消防庁は、昭和24年に法隆寺金堂壁画を焼失した1月26日を「文化財防火デー」と定め、この日を中心とした文化財防火運動を、全国で推進しています。村も毎年、この防火運動に取り組んでおり、今年は、飯桶地区の大雷神社で消防訓練を実施しました。訓練には、地域住民と共に、村文化財保護審議会、村消防団、南相馬消防署飯館分署、村教育委員会が参加。消防団の放水訓練や、参加者による初期消火訓練など、火災発生時に備えた訓練が行われました。



▲大雷神社の雪の境内で発煙筒をたき、ポンプ車を使った放水訓練を行いました

2/4 菊池製作所が「ふくしま産業賞」を受賞



▲記念撮影に臨む受賞企業の代表。前列左から3人目が菊池社長。右隣は内堀雅雄知事

村内で操業を続ける(株)菊池製作所(本社・東京都八王子市)が、福島民報社主催・福島県他共催の「ふくしま産業賞」において、震災後の発展的な取り組みが評価され、福島民報社奨励賞を受賞しました。同賞は、入賞31社の上位3賞にあたる賞で、菊池功社長が、民報ビル(福島市太田町)で開かれた表彰式に出席。受賞スピーチで、「現在多くの大学と連携しロボット関連の事業を展開できているのも、村に会社を残してくれた社員たちのおかげ。共に受賞を喜びたい」と語りました。

「までい牛」と純米大吟醸「飯館」を味わう

2/10

ホテル福島グリーンパレス(福島市)で、村と村酒販店会共催の「までい牛と純米大吟醸飯館に親しむ夕べ」が開かれました。「までい牛」は、小林将男さん(関沢)が、飯館牛の血統を守って千葉県で育てる黒毛和牛。純米大吟醸「飯館」は、昭和62年に、村内産の酒米「美山錦」を使い、村おこしの一環で製造・販売された日本酒で、震災後は、避難先で酒米を生産する小林稔さん(前田・八和木)ら関係者の努力で生産が続いています。多くの方が美酒と美食に舌鼓を打ち、関係者は「感無量」と喜び合いました。



▲までい牛はサーロインステーキやローストビーフの寿司で提供



▲前売り券は早々に完売。村民をはじめ、この日を待ちかねたファンがテーブルを囲みました

3/31 復興へ新たなスタート

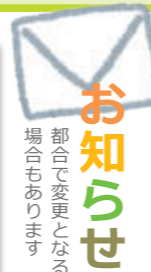
避難指示解除記念式典
(交流センター「ふれ愛館」)

3/31 国が避難指示を解除

午前0時に長泥を除く
19行政区で避難指示が
解除されます

3/6 村社協が村内へ

村社会福祉協議会の
村内再開
(陽だまりの家)



松川第一応急仮設住宅



食品科学科の生徒6人と集会所で交流しました

福島明成高校の生徒6人が、バレンタインデーに合わせて4つの仮設住宅に特製のバウムクーヘンを届けました。同校は、授業の一環で、洋菓子店「バウムラボ樹楽里」と商品開発を行っていて、その収益と同店の協力による4年連続の贈り物です。松川第一応急仮設住宅の集会所では、住民代表が、このバウムクーヘンを生徒と一緒に味わい、笑顔で感謝を伝えました。



バウムクーヘンはチョコレート味



「学校で作る米や卵を使っているんですよ」「よくできているね」

喜んでいただけてうれしいです！
うん、うまいな～

2/13

2/3

アルバム

2/20

2/11

やまゆり保育所



自分で作ったお面をつけて、かわいい鬼が勢ぞろい

やまゆり保育所で、節分の豆まきが行われました。自作の鬼の面でホールに登場した子ども達は、「鬼は外、福は内」と童謡「まめまき」を歌い、「お腹の中の怒りんぼ鬼や、いじわる鬼をやっつけよう」と豆まきに臨みました。先生方が準備したのは、小さな手でも投げやすい紙製の豆。子ども達は、その豆を手にも、壁に貼られた鬼と大バトルを繰り広げ、お腹の鬼を一掃しました。



恵方巻きにちなんだ太巻きがおいしそう。食べやすいよう刻みのりで巻きました



至近距離からバシバシ攻撃。力を合わせて鬼をやっつけろ！



「おいも～」「ハンバーグ～」と子ども達。「いいえ、大きいですけど、これは豆ですよ～」と先生

福島市飯野町に事務所を置いてきた村社会福祉協議会が、避難指示解除を前に、伊丹沢地区の「陽だまりの家」に移転します。移転再開は3月6日からで、その後も、帰還する村民、避難を続ける村民の双方に寄り添う取り組みを続けます。生活相談員の緑川史子さんは「村の皆さんのコミュニケーションを図る大切な場です。これからも気軽に来ていただきたいです」と話していました。

飯館村社会福祉協議会



約6年に及ぶ活動の足跡を箱詰めします

新事務所となる「陽だまりの家」。「いちばん館」に隣接しています



長期間お借りした「いいの交流館」。地域への感謝の思いは尽きません

松川第二応急仮設住宅



寄り添いながら避難生活を乗り越えてきた仲間です

仮設住宅老人クラブが主体の「第二の会（菅野益夫会長／関根・松塚）」は、年齢制限なしの催しで、住民の親交を深めてきました。避難指示解除を前に、復興公営住宅や、建て替えた自宅に移る人が増えてきたことから、この日は、歌手の藤田征人さん（前田・八和木）らをゲストに招き、新生活に進む仲間の送別会を開催。昼食には、自治会特製の「元気汁」も振る舞い、共に過ごした日々を皆で振り返りました。



藤華新流澄美れ会の皆さんは、艶やかな舞踊で、会に華を添えました



おいおいカラダはだいじよぶか～

口からテープをずるずる

軽妙なトークも楽しい中島真一さん（比曾出身）のマジックショー

お聞かせください

避難生活の中で感じていること、困っていること。除染や賠償、村の事業などについて聞いてみたいこと。ジャンルは問いません。皆さんの声をお聞かせください。



佐藤 美喜子さん(関根・松塚)

皆に助けられて仮設住宅の管理人を務めてきました。多くのものを失った6年間ですが、「人との出会い」を得ることができました。住民の皆さんは家族のように思えます。国内外からいただいた支援にも力をもらいました。どこかで人の役に立ち、返しきれない大きな恩を少しずつでも返していきたいと思っています。

大震災から丸6年が経とうとしています。そして3月31日には、帰還困難区域を除く地域で、村の避難指示が解除されます。

そのような中、仮設住宅や借り上げ住宅を退去して、村内外に暮らしの拠点を移す人が増えています。佐藤さんが、退去する人を見送る時、「どうか元気で」と祈るような気持ちになると話されていたように、寄り添い合い、励まし合ってきた皆さんが離ればなれになる影響は、注意深く見守っていく必要があります。避難指示解除を機に帰村する人、避難先で新しい暮らしに進む人が、それぞれの場所で確かな一歩を踏み出せるよう、声を掛け合い、共にがんばっていきましょう。

今も寄せられるあたたかな支援については、佐藤さんのお話の通り、村も村民も、一つひとつに込められた思いを忘れることなく、応えたり伝えたりしていかなければなりません。大きな区切りとなるこの春は、私たちにとって、改めて感謝の思いをかみしめる機会となります。

長谷川 光男さん(前田)



家内と2人で、村に戻って暮らします。山仕事をしているのですが、村内ではできないので、会津や県外に出向いて仕事をしなければならず、大変です。皆がバラバラになっていて、相談することも難しく、今後5年くらいで情勢がどう変わっていくか、まだ見通せないなと感じています。

長谷川さんのお話の通り、復興はまだまだ道半ばであり、今後5年という時期は、復興を推し進める上で大変重要な期間になると考えられます。村は、避難指示解除を、復興に向かう新たなスタート地点と位置づけて、暮らしやなりわいの再生に取り組む村民の皆さんと共に、新しい村づくりに邁進していきます。また、里山や森林の再生も、今後の大きな課題であり、一歩ずつ取り組んで行かなければなりません。

困りごとがある際には、相談窓口の一つとして、ぜひ村役場にもご連絡をいただければと思います。対応している村の部署や、団体・機関をご紹介できますし、村にとっても、皆さんのご意見や具体的な事例が、事業を検討していく上で、大変重要です。

いいたて 歳時記

その 23

サルツパカマと手ぬぐい

田畑で仕事をする時は、男も女も、仕事着を着ました。仕事着は、「野良着」とも呼ばれ、作業に合わせて、季節に合わせて、身につけました。そんな仕事着の一つに、サルツパカマがあります。

サルツパカマは、モンペ型のボトムスですが、モンペとはちよつと違います。マチを入れることで腰回りの部分をふくらませ、ひざ下はやや細身にできています。着やすく、どこか抜けている感じのかわいい形。最近では、おしゃれな部屋着のデザインにも取り入れられています(本当です。気になる方は、「サルツパカマ」で検索してみてください)。マチを付けるのは、動きやすさを出すためですが、布地を無駄なく使えるという利点もあるそうです。

そして、もう一つ。仕事をするのに手放せなかったアイテムに、手ぬぐいがあります。ホコリをよけ、汗を拭き、寒さをしのぐという優れたもの。男のかぶり方と、女のかぶり方があるそうです。詳しくは写真をご覧ください。



参考：飯館村発行「飯館村史 第3巻 民俗」 ※写真は転載

誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
庄司 小春ちゃん	和史・芳美	草野
中井田 謙也くん	拓也・佑実	大倉
鈴木 涼斗くん	綾人・志織	深谷
佐藤 彩里愛ちゃん	文信・智美	宮内

すくすくと元気に育ってね

結婚おめでとう

氏名	出身地
大内 優輝	佐須
加藤 めぐみ	山形県
蝦名 星也	青森県
齋藤 爽香	宮内

いつまでもお幸せに

おくやみ

氏名	年齢	行政区
菊地 サク	87	蕨平
菅野 寅男	88	長泥
高橋 正喜	89	小宮
菅野 澄子	50	上飯樋
鈴木 良明	75	草野
齋藤 子明	89	大久保・外内
鈴木 節雄	83	小宮
大和田 セツ子	92	八木沢・芦原
塚原 キヨ	90	伊丹沢

ご冥福をお祈り申し上げます

(1月21日から2月20日までに届け出のあったものを掲載) ※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

編集後記

2月中旬、いいたていちごランドに取材でお邪魔しました。ハウスの中には、たくさんのいちごの苗。葉っぱの鮮やかな緑色が目に飛び込んできました。実が付きだすのは5月頃。春をただじっと待つのではなく、力を貯めている、そんな気がしました▼3年続けて行われた臼井真先生のいのちの授業。自身の被災体験をもとに作られた歌は、子どもたちの声を通して心に響き渡ります。授業後に大内小学校校長が「大人は、子どもたちの命を守り、幸せを運ぶ使命がある」と涙声で感想を話しました▼一人ひとりのこころの中にある、それぞれの「復興」という種。大切に、大切に育てていきましよう。いつかきつと花咲く日を信じて。

(木幡)



2月16日の診療日。左から、看護師の黒沢良子さん、医師の齋藤徹先生、事務職の齋藤恵さん

仲間とともに
その47

いいたて
クリニック

火曜日は渡辺敢仁(かんじ)先生、木曜日は写真の齋藤徹先生(共に総合診療科)が診察します。事務職は齋藤さんを含め2人いて、共に震災前からのスタッフです

活動データ

- 「いいたてクリニック」は村と協定を結ぶ社会医療法人秀公会が平成22年2月から指定管理者となっています。
- 昨年9月に、診療を再開。現在は、火・木曜日の午前9時から正午が診療時間です。予防接種(要予約)もできます。

木曜日の診療が終わる頃、クリニックの待合室には穏やかな時間が流れていました。事務職の齋藤恵さんは、「以前は混み合って、待ち時間も長くなってしまったのですが」と振り返ります。「村の人はやさしくて、初対面でも親しみやすい。震災前から共に働くスタッフと、ここで、いろいろな思い出話もしています」。また、医師の齋藤徹先生は、本院である「あづま脳神経外科病院」に通う村民とも顔なじみです。「4月以降は村の自宅からクリニックに通うよ、と言う人もいます」。暮らしの変化を気づかない、「気になることがあれば、いつでも来て、気軽に相談してほしい」と話していました。

運転を終了します
小宮仮設焼却施設



運転を終える焼却施設の前で。右が前運営責任者の井土俊輔さん、左が現運営責任者の青山徳幸さん

焼却炉から見つかった集めた硬貨。1枚ずつ拾い集めた警備員、691枚を南相馬警察署に届けました。保管期限を迎え得物の保管期限を迎え関係機関が協議の結果村の所有となりました

平成26年度から屋内の片付けごみを焼却してきた環境省の施設「小宮仮設焼却施設」が、役目を終え、3月初旬に運転を終了します。2年間で1900トンを焼却する予定でしたが、家庭内の燃えるごみなどが増え、期間を延長して約3000トンを焼却しました。運転終了後は、施設をテナント等で覆って解体工事を行い、年内を目処に原状回復します。

この焼却施設では、燃えかすの中から、硬貨を拾い集めてきました。「燃えかすとして、ただ捨てられるのを見過(こ)せなかった」と井土前運営責任者は話します。「村の皆さんが、それだけ慌てて避難し、片付けも急がなければならなかったということでしょう」。村では、この善意を生かしたいと考え、回収した2万5000円余りの全額を熊本地震で被災した熊本県益城町に寄付させていただきます。

表紙
みらい議会

小学6年生が議場に立ち発想豊かに未来の事業を提案しました。P8の記事もご覧ください。



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。